

事例 1

交流・居場所

～ 参加者と担い手が共に楽しめる場所に～

【鶴見区事例】「下町茶房」(平成 30 年 4 月開設)

団体紹介

- ・団体名：下町茶房
- ・活動者の受講年度：平成 29 年度（第 2 期生）
- ・メンバー数：5 人
- ・活動実績：令和元年度は、月 1 回開催、約 7 人が参加など
- ・活用制度：特定非営利活動法人あしほ からの支援金

ヨコハマいきいきポイント（介護支援ボランティアポイント事業）



活動内容

代表の荻島さんが、「認知症の人とその家族の居場所を作りたい」との思いから、平成 29 年度鶴見区地域づくり大学校（当時：鶴見・おもしろゼミナール）を受講されました。講座では、地域で実現したいプランを話し合うために 3 つのグループが結成され、荻島さんが参加したグループは「サロンづくり」を目指しました。「サロン」と、ひと口に言ってもいろいろなテーマや運営の方法があることを知り、認知症になっても暮らしやすい地域になってほしいという思いをさらに強く持ち、認知症の人やそのご家族が気軽に集える場づくりを学び、企画しました。

講座終了後、より具体的な検討を始めました。場所探しに一番苦労しましたが、潮田地域ケアプラザの協力もあり、平成 30 年 4 月にサロンをスタート。潮田地域ケアプラザ前のふれあいサロン・ポートで「認知症カフェ」を月 1 回で開催しています。『参加者と担い手が共に楽しめる場所に！』をコンセプトに、毎回平均 7 人くらいの方が参加し、荻島さんのお手作りのお菓子とおしゃべりを楽しんでいます。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い施設が使えず、令和 2 年度はほとんど活動ができませんでしたが、参加されていた方たちから「早く再開して」との声もあり、いつでも再開出来るように準備を進めているそうです。